

## 道徳授業地区公開講座指導案（第2学年）

授業者 高増 裕介 2A  
釣部 恵梓 2B

### 1 主 題 協力し合うことで困難を乗り越える集団

内容項目 4 - ( 2 )

地域の一員として自覚をもち、大人まかせではなく協力し合いながら、行動をとれる集団になるよう努める。

### 2 主題設定の理由

東北の大震災以降様々な防災教育が行われているが、実際昼間に大地震が起こったとき、地域に成年は少なく、幼児、高齢者が多勢で中学生の力が頼りになると地域社会からも期待されている。少ない大人の指示を待たず、中学生が自主的に行動しなければならないという場面を設定し、どう行動できるがお互いにどう協力していくことが望ましいのかを考えさせたい。この授業で考えたことは、大人になってからも主体的に行動し、様々な人と協力して社会を形成する基礎になると考える。

3 ねらい 集団の中で一人ひとりが主体的に自分の役割を考え協力し合おうという意欲を培う。

### 4 資料 自校作成

3 . 1 1 を 忘 れ ない  
未来を作るBOOK

### 5 資料のあらすじ

学校内に自分のクラスの生徒たちしか残っていない放課後、大地震が発生。大人は、救助に向かい生徒だけが学校に残された。避難所である学校には地域の人が続々と集まってくる。そのとき、生徒はどのような行動をとるべきか。必要なものや準備しておいたほうが良いものはなにか。考えなければならない状況に陥った。

### 6 指導の展開 裏面参照

### 7 評価

- 1、地域社会の一員であることを自覚し、自分の役割を主体的に考えることができたか。
- 2、自分にできることを一人ひとりが考え、分担することで協力し合おうという気持を持つことができたか。

	資料	別紙	作者	加納みちる
9月27日	主題名	協力し合うことで乗り越える集団	内容項目	4 - (2)
主題設定理由	東北の大震災以降様々な防災教育が行われているが、実際昼間に大地震が起こったとき、地域に成年は少なく、幼児、高齢者が多勢で中学生の力が頼りになると予想される。少ない大人の指示を待たず、中学生が自主的に行動しなければならないという場面を設定し、どう行動できるがお互いにどう協力していくことが望ましいのかを考えさせたい。この授業で考えたことは、大人になってからも主体的に行動し、様々な人と協力して社会を形成する基礎になると考える。			
ねらい	集団の中で一人ひとりが主体的に自分の役割を考え協力し合おうという意欲を培う。			
	学習活動	発問と留意点		
導入	本時のテーマが「協力して困難を乗り越ろう」であることを伝える	<p>【導入発問】「今までこの21人で「協力したこと」ってどんなことがあったかな？」</p> <p>【留意点】今日のテーマは「協力して困難を乗り越ろう」と黒板に書く課題が2つあるなど、本時の流れを理解させる。</p>		
展開	<p>課題設定を聞き、考える。</p> <p>課題1を聞き、班ごとに意見をまとめ、発表する。</p> <p>課題2を聞き、班ごとに意見をまとめ発表する。</p> <p>自分ができるところを考える</p> <p>実際に避難所となった学校の文章を聞く。</p>	<p>課題1(別紙)を読む</p> <p>【基本発問1】「老人は、赤ちゃんのいるお母さんはどんなことに困るのだろうか。」</p> <p>【留意点】一人ひとりが紙に書き、見せ合いながら班で意見を出し合い画用紙にまとめる。班長が黒板に画用紙を貼りに発表する。黒板の画用紙を教師が読み上げながら、他にどんなことがあるか付け足したりする。</p> <p>課題2(別紙)を読む</p> <p>【基本発問2】「他にどんなことに困るか考えてみよう」</p> <p>【留意点】班で意見を出し合い、班長が黒板に画用紙を貼りに発表する。教師が読み上げながら、他にどんなことがあるか付け足したりする。</p> <p>【中心発問】「避難所であなたのできることを考えて、発表してください。」</p> <p>自分ができるところに自分の名札を貼りにいく。それを元に発表する。</p> <p>教師が体験文を読み上げる。</p> <p>【留意点】被災地の写真を見せるなどしながら、現実感をもって聞けるように留意する。</p>		
終末	文章化	<p>【終末】ワークシートに記入し考える。</p> <p>【留意点】行動への意欲づけと、協力することの大切さを伝える。</p>		